

# 外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/11/01

## 欧米経済両にらみの相場に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	米金融政策の先行きは？	2 - 3
		予想レンジ: 75.50 ~ 80.50 円	
<u>カナダ/円</u>	➡	外部要因に左右される展開が続く	4 - 5
		予想レンジ: 75.50 ~ 82.00 円	

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



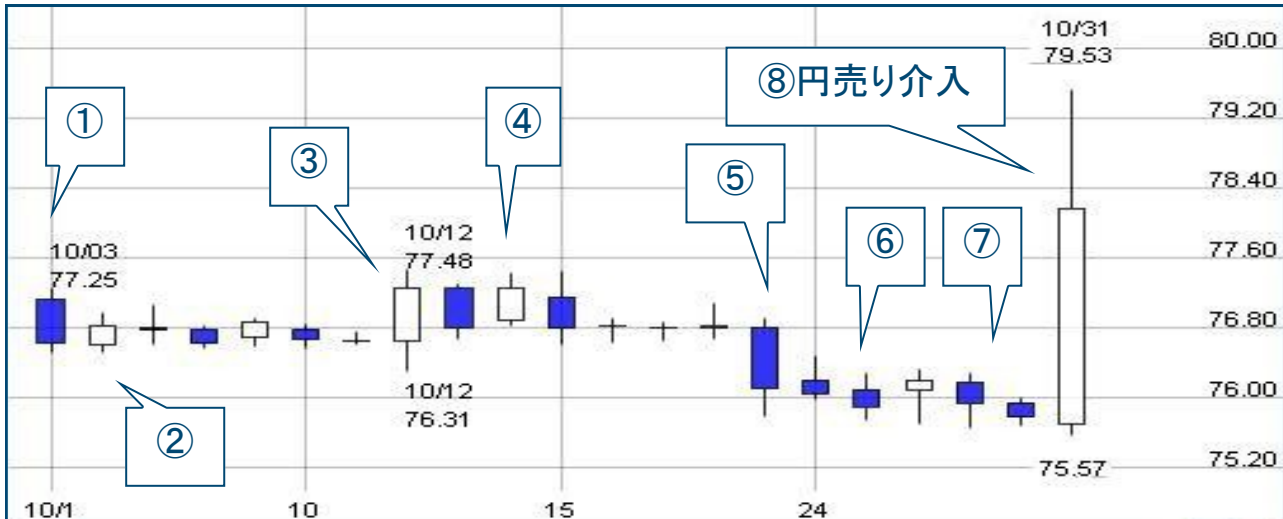
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD/JPY

## ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	77.12円	79.53円	75.57円	78.17円



- ① 3日、日本株の下げを受けたクロス円の下落到連れてドル/円も下落。ギリシャの2011年財政赤字が対国内総生産(GDP)比で8.5%と欧州連合(EU)との公約より1%上回る見通しとなったことから欧米市場でも株安・クロス円安の流れは続き、ドル/円も下げ続けた。
- ② 4日、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が議会証言にて「景気回復を促進するため、必要に応じて一段の行動を取る用意がある」などと発言したことを背景に、追加緩和の思惑からNYダウ平均株価が下げ幅を縮小。これを受けてクロス円が上昇すると、ドル/円も小幅ながら上昇した。
- ③ 12日、スロバキア野党が連立与党と協議し、2012年3月に選挙を実施することと引き換えに遅くとも14日までに欧州金融安定ファシリティ(EFSF)拡充案を承認することで合意、と伝わり、主要国株価が大幅に上昇するとクロス円が上昇。これに連れ、ドル/円はストップロス巻き込みながら、77.48円まで上昇した。さらに、「日銀がスイス中銀と同様の形でドル/円の下限を設定する」という噂が一部で広がったことも円売り材料視された。
- ④ 14日、NY市場で一部報道が複数の日本政府関係者からの話として、「来週にも円高抑制に向けた新たな措置を講じる」と伝えた。これを受けて円売りが強まると、ドル/円は一時77.44円まで上昇した。
- ⑤ 21日、NY市場序盤に欧州株高を受けた欧州通貨買い・ドル売りが進むと、ドル/円はストップロスを巻き込みながら急落。76.00-77.50円のダブルノータッチオプションの下抜けを狙ったドル売り・円買いも加わり、75.79円と、戦後最安値を更新した。
- ⑥ 25日、ユーロ/円が大きく値を下げたことに連れた上、22時発表の米8月S&P/ケース・シラー住宅価格指数(予想:-3.50%、結果:-3.80%)、22時59分発表の米10月リッチモンド連銀製造業指数(予想:0、結果:-6)、23時発表の米8月住宅価格指数(予想:+0.2%、結果:-0.1%)および米10月消費者信頼感指数(予想:46.0、結果:39.8)と、発表された米経済指標が軒並み市場予想よりも弱い結果だったこともドル売り要因となり、ドル/円は75.73円と戦後最安値を更新した。
- ⑦ 27日、日銀が金融政策決定会合後の声明にて5兆円の長期国債買い入れ規模拡大を発表すると小幅にドル/円は上昇したが、一部に「日銀の声明発表と同時に円売り介入が入るのでは」と期待があった反動で、その後は反落。この流れはNY市場でも続き、75.65円の戦後最安値を更新した。
- ⑧ 31日、オープン前のオセアニア市場で75.32円の戦後最安円を更新。その後も戻りは弱く、10時25分に政府・日銀が円売り介入を敢行すると79.53円まで上昇した。しかし、欧州中銀のゴンザレスパラモ専務理事が日本の単独介入について否定的な見方を示したことなどを背景に上げ幅を縮小した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD / JPY

## 今月のポイント

10月のドル/円相場は75.57円～79.53円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(ドル高・円安)となった。9月に続き、為替相場の関心が欧州の債務問題に集中する中、ユーロを中心にドルと円が同じ方向に動く展開になったことにより、ドル/円は方向感が出にくい状態が続いた。ただ、次第に日本の円高対策を要求するかのように円高・ドル安気味の推移となり、下旬には21日(75.79円)、25日(75.73円)、26日(75.70円)、27日(75.65円)と連日で戦後最安値を更新。さらに、31日のオープン前のオセアニア市場で75.32円の戦後最安値をつけると、政府・日銀は円売り・ドル買い介入に踏み切り、ドル/円は4円近くの大暴落となった。この円売り介入によって、ドル/円相場には一旦あく抜け感が広がっているが、このまま上昇トレンド入りとなるかどうかは結局のところ米国の金融政策の方向性に依存すると考えられる。

1～2日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)については、モーゲージ担保証券(MBS)の買い入れ拡大を行うかどうか注目されており、これが決定されれば、基本的にはドル売り要因となる。イベント通過の安心感が広がれば、再び欧州債務問題に市場の目が戻り、為替相場はユーロ睨みの相場になってドル/円の横ばい相場が再開される可能性がある。一方、このFOMCで新規の緩和策が導入されなかった場合は、今月発表される米経済指標を1つ1つ確認し、12月FOMCでの追加金融緩和の可能性を計っていく展開になりそうだ。緩和期待が高まればドル安圧力、緩和観測後退となればドル高圧力が相場に掛かることとなる。ただ、市場の全般的な期待が「米国の金融緩和」に傾きやすい状態にある限り、ドル/円がどんどん上値を切り上げていくムードにはなりにくそうだ。なお、ドル安・円高が進んだ場合、再び本邦の円売り・ドル買い介入の可能性が取り沙汰されるとみられる。特に75円台半ばでは介入警戒感から底堅く推移するだろう。実際に介入が入れば10月31日と同様の大幅上昇になる見通しだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 75.50～80.50円)

## 今月の注目材料

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

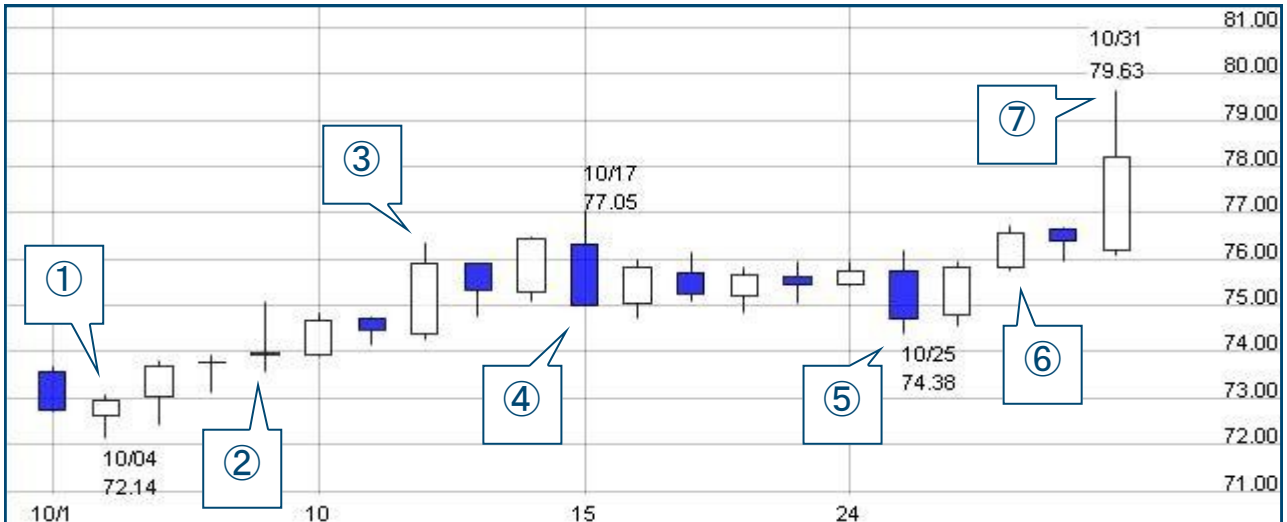
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	10月米ISM製造業景況指数	11/16(水)	10月米鉱工業生産
11/2(水)	10月米ADP全国雇用者数	11/17(木)	10月米住宅着工件数
	米FOMC政策金利発表		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
11/3(木)	10月米ISM非製造業景況指数	11/21(月)	10月米中古住宅販売件数
11/4(金)	10月米雇用統計	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
	G20首脳会議(11/3～)	11/23(水)	10月米耐久財受注
11/10(木)	9月米貿易収支		米FOMC議事録
11/11(金)	11月ミンガン大消費者信頼感指数・速報値	11/25(金)	10月日消費者物価指数
11/14(月)	第3四半期日GDP・一次速報	11/28(水)	10月米新築住宅販売件数
11/15(火)	10月米小売売上高	11/29(木)	11月米消費者信頼感指数
	11月米ニューヨーク連銀製造業景況指数	11/30(金)	11月米ADP全国雇用者数
11/16(水)	日銀金融政策決定会合(15日～)		11月米シカゴ購買部協会景況指数
	10月米消費者物価指数		米地区連銀経済報告(ページブック)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# CAD/JPY

## カナダ/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	73.58円	79.63円	72.14円	78.20円



- ① 3日、ギリシャが2011年と12年の財政赤字削減目標を達成できないと発表した事を受けて、ユーロ圏財務相会合でギリシャ向け次回融資の決定が先送りされた。これを嫌気してNYダウ平均株価が250ドル超下落すると、カナダ/円は2009年2月以来となる72円台を示現。翌4日には72.14円の安値を付けた。
- ② 7日、加9月雇用統計で、失業率が7.1%と予想(7.3%)以上に低下し、雇用ネット変化が6.09万人増と予想(1.5万人増)以上の増加となった事を好感してカナダ/円は上昇。さらに米9月雇用統計で非農業部門雇用者数が予想以上の増加となった事を好感して時間外のNYダウ先物が急騰すると、カナダ/円は75.00円台まで上値を伸ばした。しかしその後、格付け会社フィッチがイタリアとスペインの格下げを発表すると、NYダウ平均株価がマイナス圏に転落。カナダ/円は73.70円台まで急速に値を下げた。
- ③ 12日、スロバキア議会在、一度は否決した欧州金融安定基金(EFSF)の機能拡充案を承認する見通しとなった事を好感して欧米株価が大幅に上昇。「日銀がスイス中銀に続いて円の上限レートを設定する可能性がある」との出所不明の噂が広がった事もあって、カナダ/円は76.34円まで上昇した。
- ④ 17日、欧州債務問題の早期解決期待から欧州株が上昇して始まるとカナダ/円は77.05円まで上昇した。しかしその後、シュイブレ独財務相が23日のEU首脳会議では解決策が示されないとの見方を示した事をきっかけに政策期待が剥落。欧米株が下落すると、一転してリスク回避ムードが高まり、カナダ/円は75.00円まで下落した。
- ⑤ 25日、カナダ中銀(BOC)は政策金利を1%に据え置くと発表し、声明では利上げの必要性に関する文言を削除した。さらに経済成長見通しを7月の+2.8%から+2.1%に下方修正した事からBOCが利下げスタンスに転じた可能性があるとの見方が台頭しカナダ/円は74.38円まで急落した。
- ⑥ 27日、日本時間午前中に終了したユーロ圏首脳会議で、欧州債務危機解決に向けた「包括策」が合意された事を好感してアジアから欧州にかけて株高・資源高が進んだ。その後の米国市場でもNYダウ平均株価が300ドル超、原油価格が4ドル超上昇すると、カナダ/円は76.72円まで上昇した。
- ⑦ 31日、オープン前のオセアニア市場でドル/円が戦後最安値を更新して下落した事を受けて、本邦通貨当局がドル買い・円売り介入を実施。ドル/円の急騰につれてカナダ/円も79.63円まで大幅高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今月のポイント

10月のカナダ/円相場は72.14円～79.63円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約6.4%の大幅上昇(カナダドル高・円安)となった。ギリシャの早期デフォルト観測が台頭し、ギリシャ国債を保有するユーロ圏の銀行の資本が棄損するとの見方から世界的な規模で金融システム不安が強まりつつあったが、9日の独仏首脳会談、14-15日のG20財務相・中銀総裁会合、21日のユーロ圏財務相会合、23日と26日のユーロ圏首脳会議などを経て、ユーロ圏債務問題の解決に向けた「包括戦力」が合意された事を受けて過度の懸念が後退。リスク回避の動きから4日には一時72.14円の2年8カ月ぶり安値を付けたカナダ/円は、主要国株価や資源価格の持ち直しにつれて反発。31日に本邦政府・日銀がドル買い・円売り介入に踏み切ると79.63円まで上値を伸ばした。11月のカナダ/円相場については、①欧州債務問題、②米国追加緩和観測、③本邦政府・日銀による追加円売り介入、等が焦点となる。①については、欧州金融安定基金(EFSF)のレバレッジ活用方法や域外からの資金集めの方法など、首脳会議で合意した「包括戦略」の具体的内容が注目される。債務危機の封じ込めに不十分との見方が広がれば、リスク回避ムードが強まる可能性もあり、カナダ/円の売り材料となる。②については、2日(日本時間3日深夜)の米連邦公開市場委員会(FOMC)に注目となる。足元では、米国景気に対する悲観的な見方はやや和らいでおり、量的緩和第3弾(QE3)が導入される可能性は低いだらう。しかし、引き続き声明で追加緩和の可能性を示唆する文言は残す可能性が高い。追加緩和期待で主要国の株価や資源価格が上昇する事になれば、カナダ/円の買い材料となる。③については、10月31日の介入を受けて当面は介入警戒感がくすぶると見られるが、3日から4日のG20首脳会議で、各国首脳から介入に否定的な発言が続出するようだと、円買い材料となる。11月も、カナダ/円は外部要因に大きく左右される展開が続きそうだ。(神田)

(予想レンジ:75.50～82.00円)

## 今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(火)	10月米ISM製造業景況指数	11/16(水)	10月米消費者物価指数
11/2(水)	10月米ADP全国雇用者数		10月米鉱工業生産
	米FOMC政策金利発表	11/17(木)	10月米住宅着工件数
11/3(木)	10月米ISM非製造業景況指数		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
11/4(金)	10月米雇用統計	11/18(金)	10月加消費者物価指数
	10月加雇用統計	11/22(火)	第3四半期米GDP・改定値
	G20首脳会議(3日～)	11/23(水)	米FOMC議事録
11/9(水)	10月中国消費者物価指数	11/29(火)	11月米消費者信頼感指数
11/11(金)	11月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	11/30(水)	9月及び第3四半期加国内総生産(GDP)
11/15(火)	10月米生産者物価指数		11月米シカゴ購買部協会景気指数
	10月米小売売上高		米地区連銀経済報告(ページブック)

巻頭の特記事項を必ずお読みください。